

あねもね

もんめ



その線を、いつまで経っても

超えられず



その向こう側が、

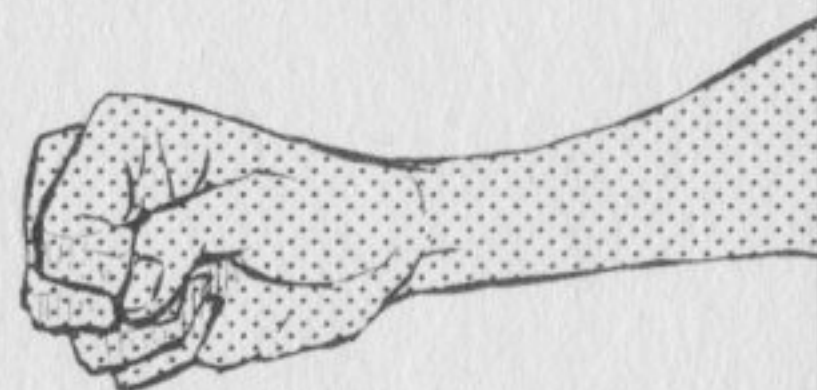
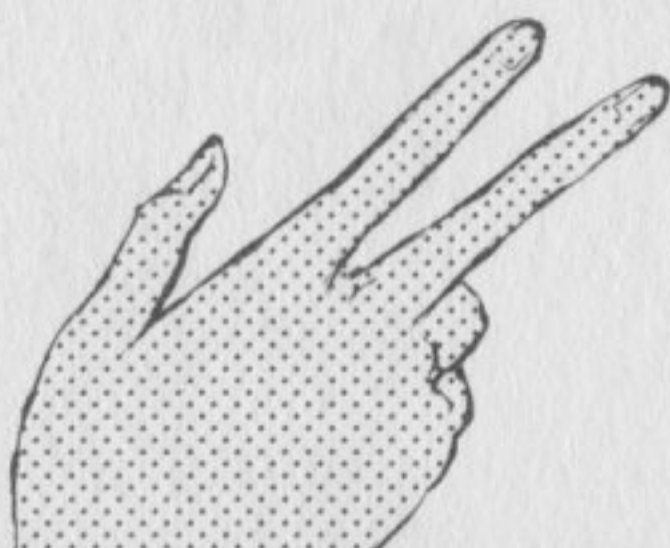
酷く恐ろしく

私は いつまで経っても

……ちゃんが、ほーしい!



じゃーんけーん
ぽんっ



わっ!!

海未ちゃん



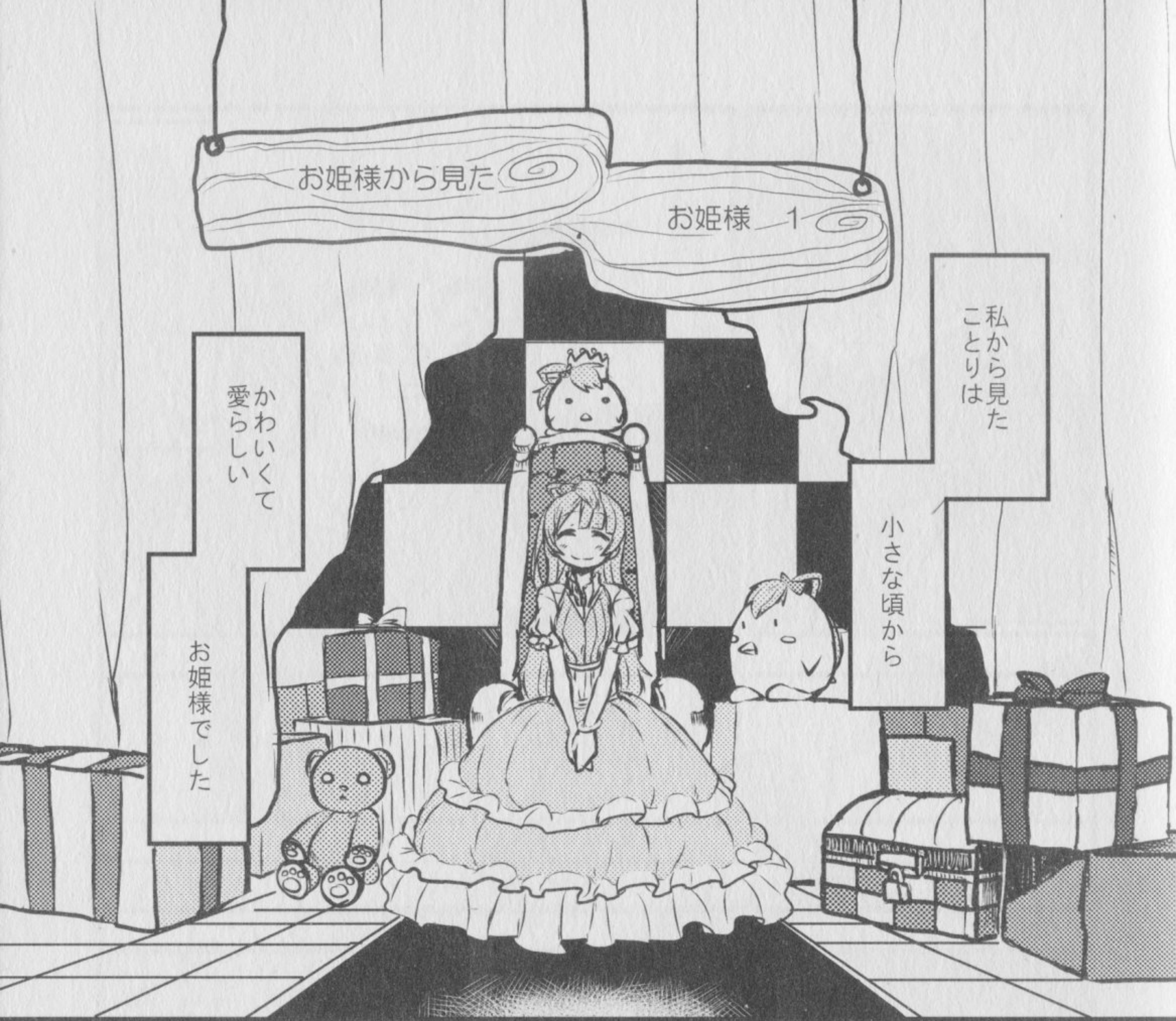
きー
きー

海未



ただいま

あの時のことを 忘れられずにいるのです



お姫様から見た

お姫様 1

かわいしくて
愛らしくて

私からは
ことりは
見た

お姫様でした

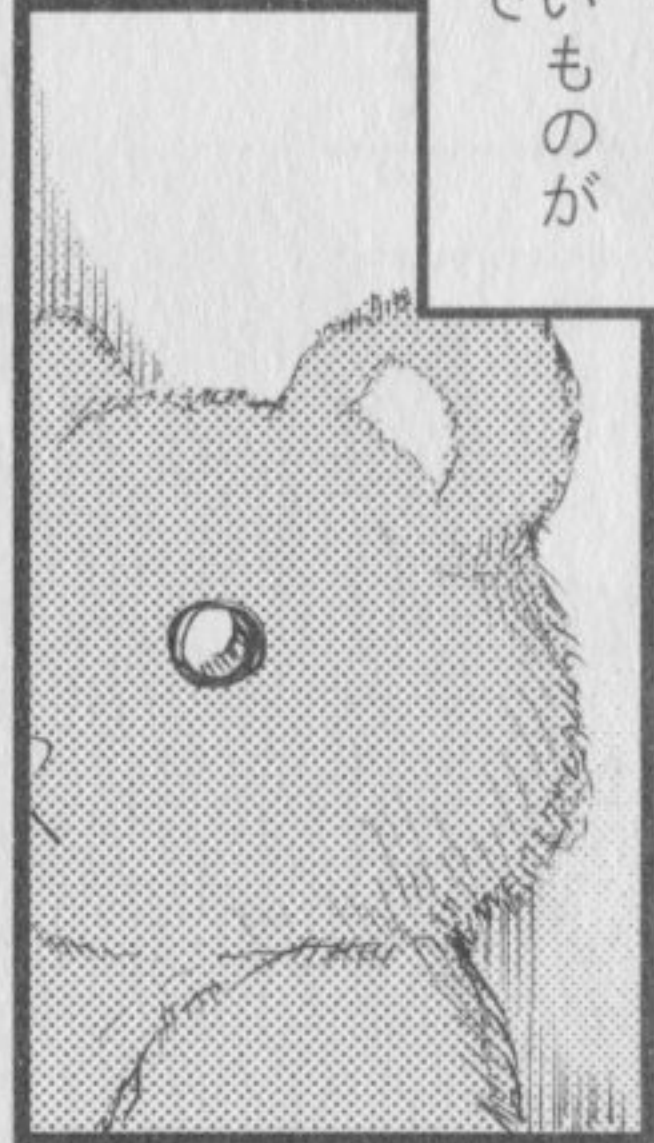
小さな頃から

女の子らしいものを
沢山知っていて



私が知らない

可愛いものが
好きで





私の想像する
女の子でした



声も、仕草も
ふわふわとしていて



だから、
色々な事を
教えてくれる
彼女に
少しでも、



いい何でも
無いです

本当？

はい



ーどうかしたの？



愚かにも
何か返せればと

海未ちゃん



覚えてますか？
昔、ことりと私の二人で
公園にいた子達と
遊んでいた時！…

あつ覚えてるよお



ー先ほどの子供達の
遊びを見て

昔を思い出しまして

昔？



うそ 海未ちゃん
何か隠してる

えっいえ
隠してるわけでは



今度は一緒に

遊ぼーね！

穂乃果ちゃんが
お店のお手伝いで
来れなくて

二人で公園に行つて
遊んだんだよね



ふふっ

懐かしいね

かーつて
うーれしい

はーないーち
もーんめっ

私も良く
覚えています

いえ

じゃーん

けーん

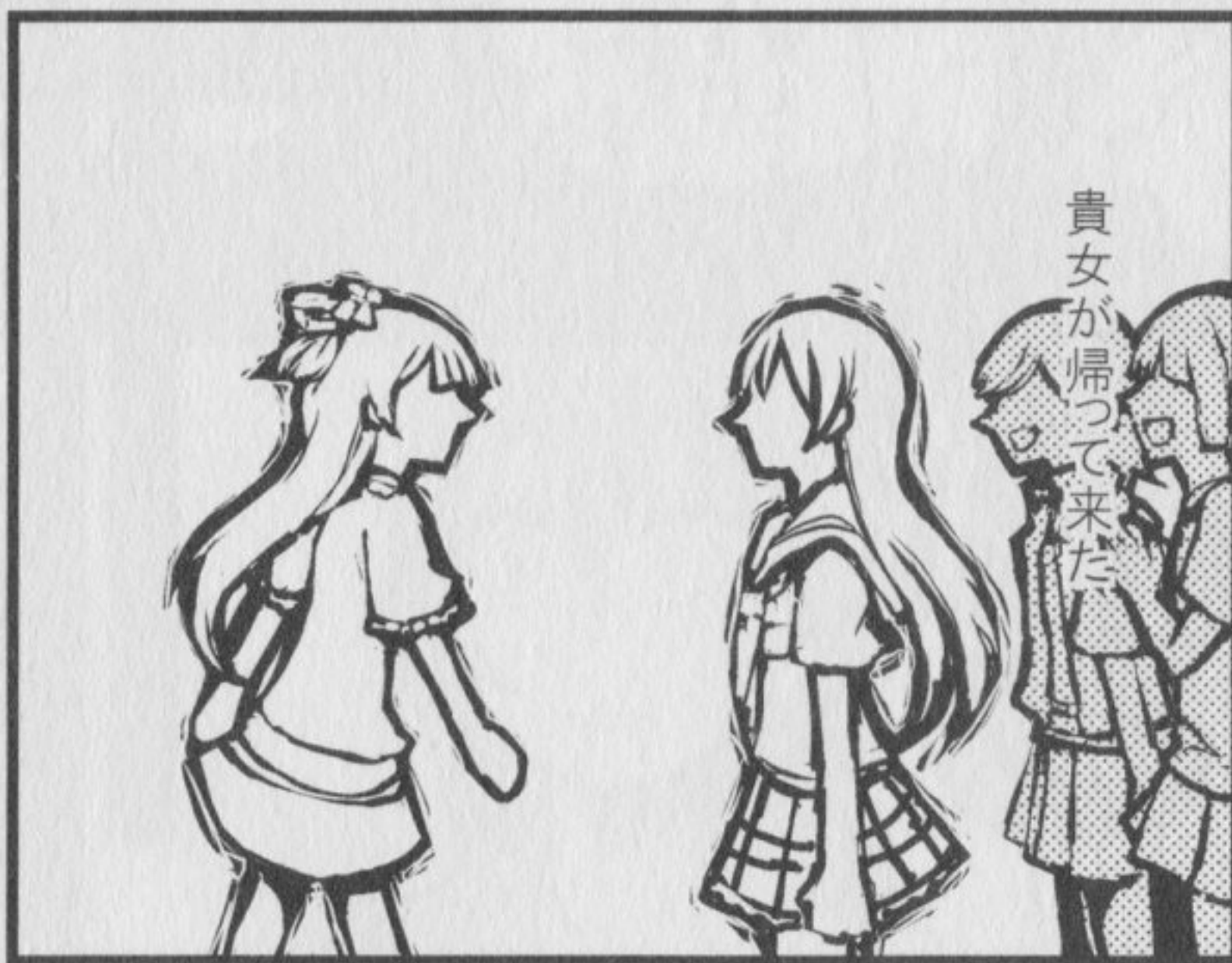
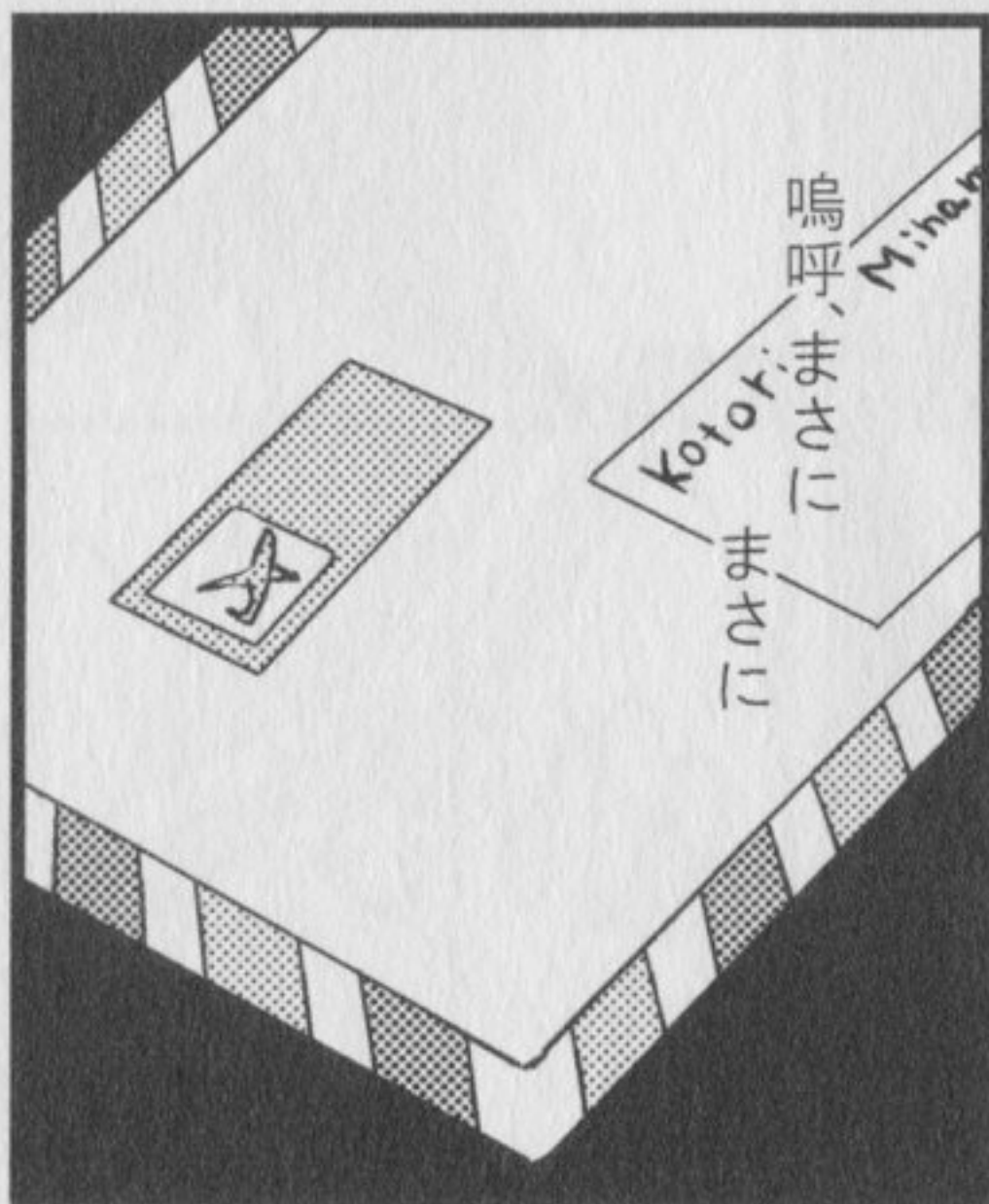
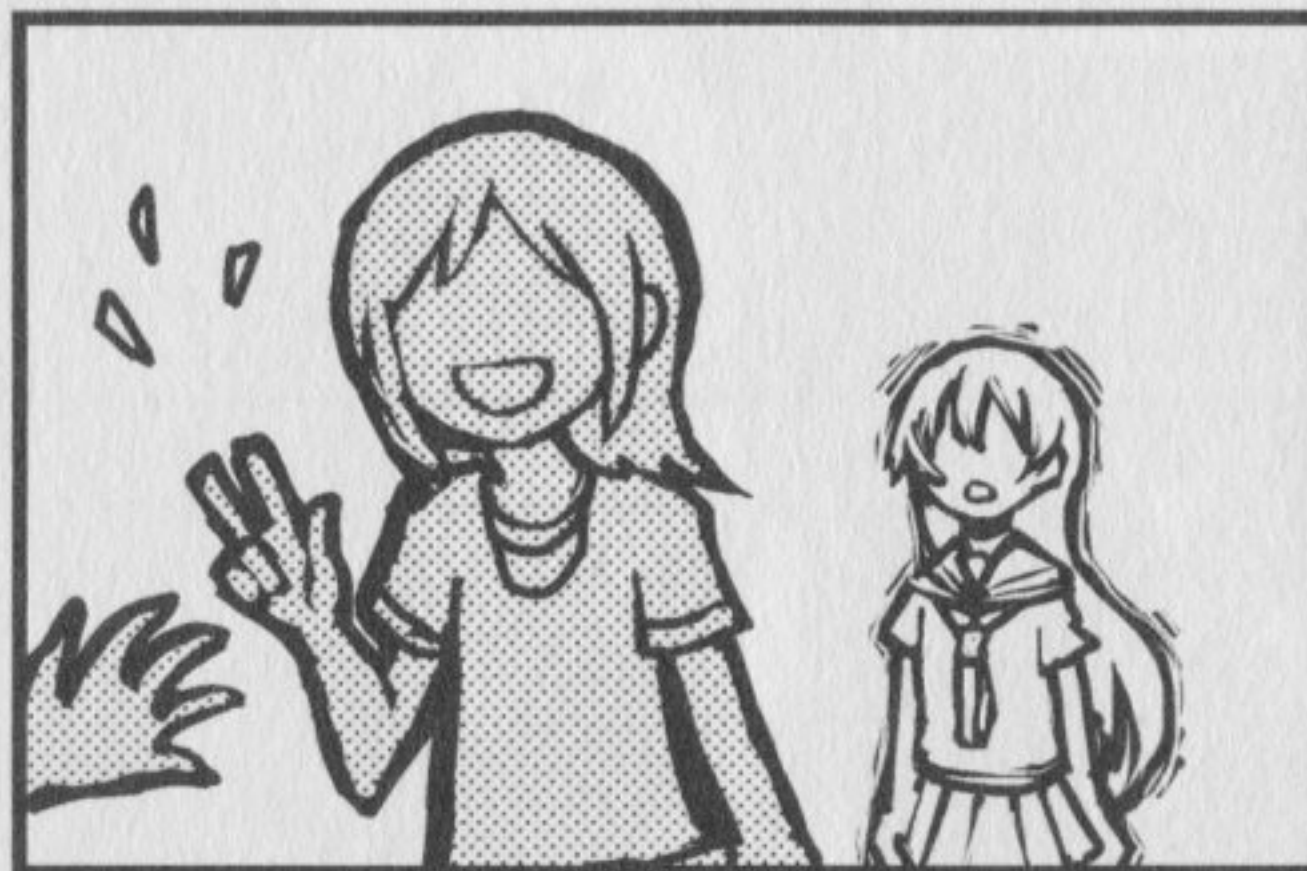
ぽんっ！

まけーて

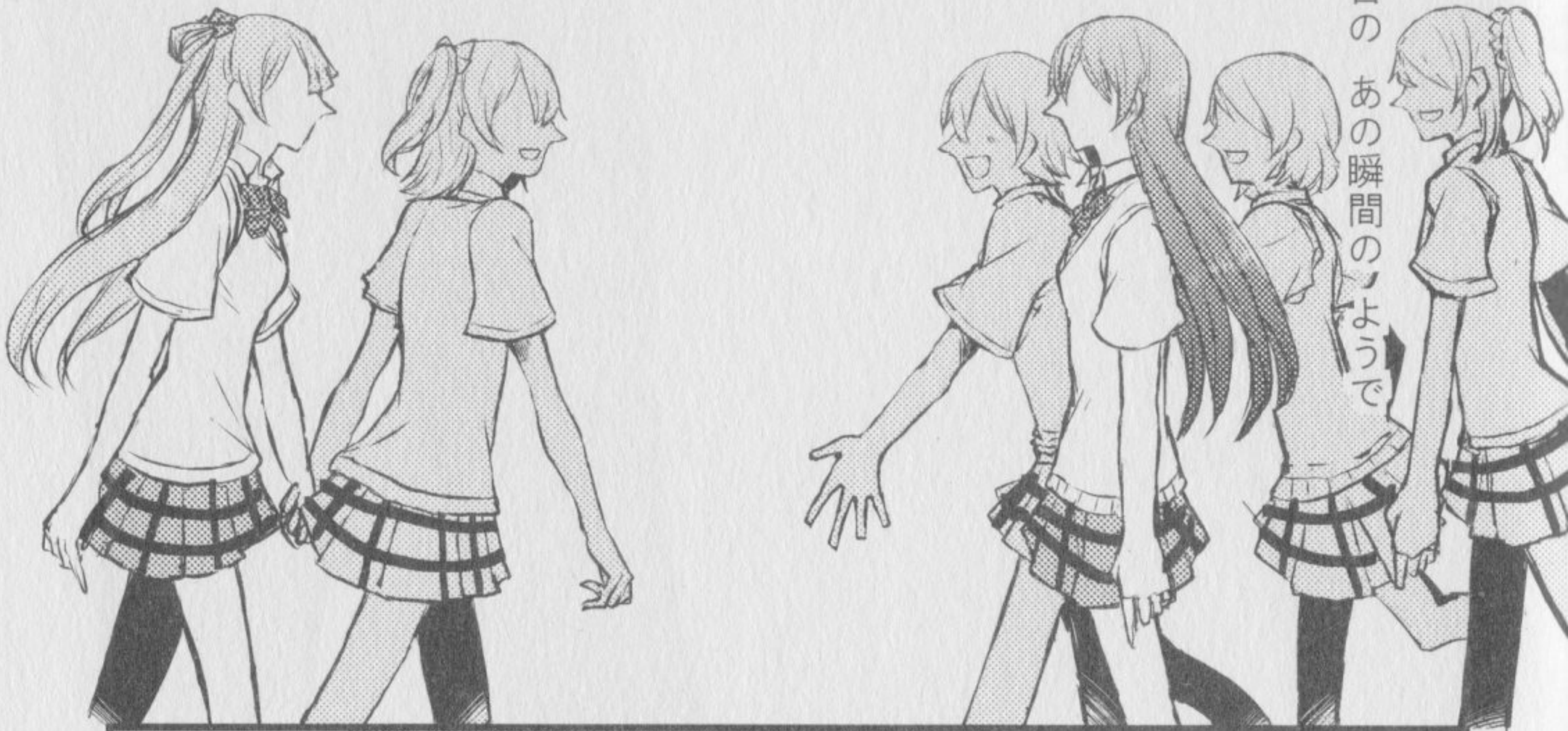
くーやしい

忘れの
ないです





先日のあの瞬間のよう



もしも私が、
きちんと

嫌だと、

いかないでと、
言っていれば

海未ちゃん

またあんな風に

遊びたいね

そうですね

ことり

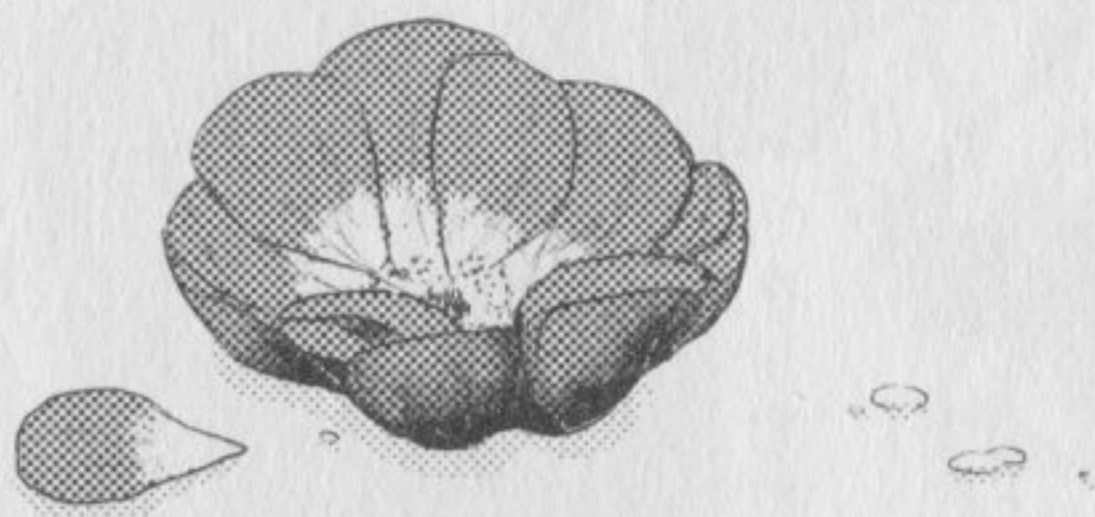
もっとはやく

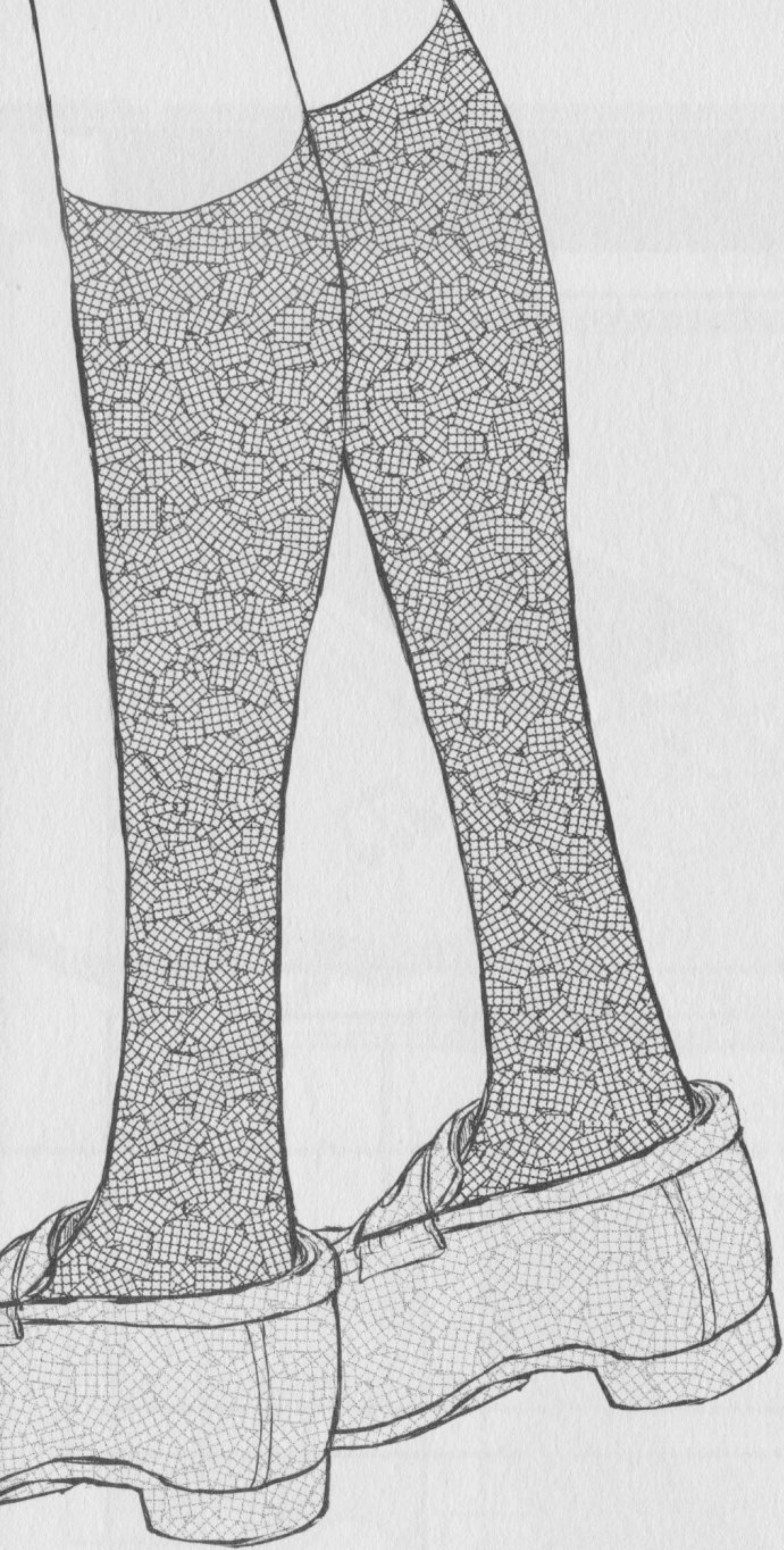
いかないで

いてくれましたか？

負けて悔しいと

お姫様は言いました。





思えば、昔から
渡った先よりも。



きっと 分かっていた私は 今日も



あなたからの 電話をとるのです

お姫様から見た

お姫様

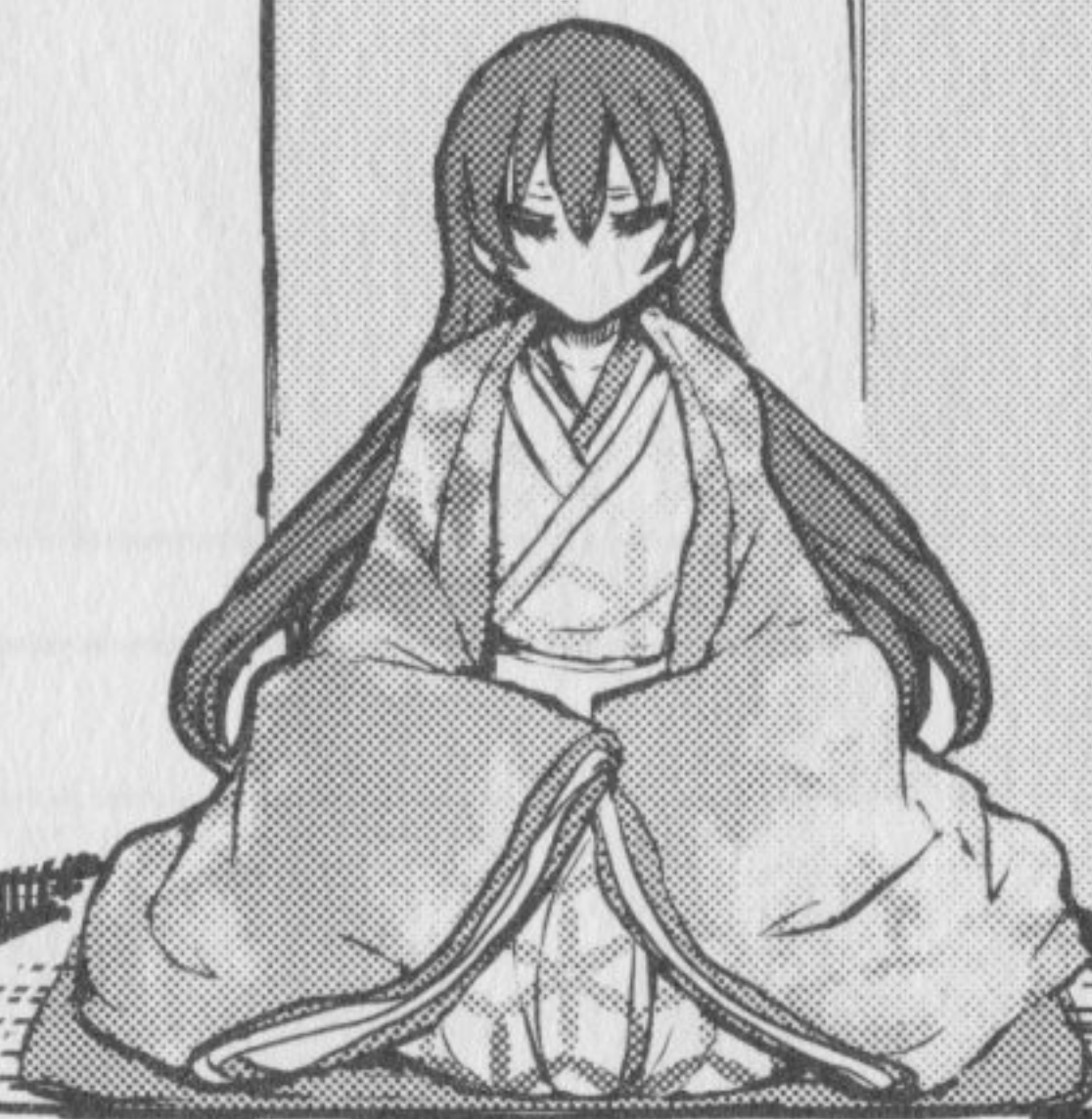
二

大和撫子の

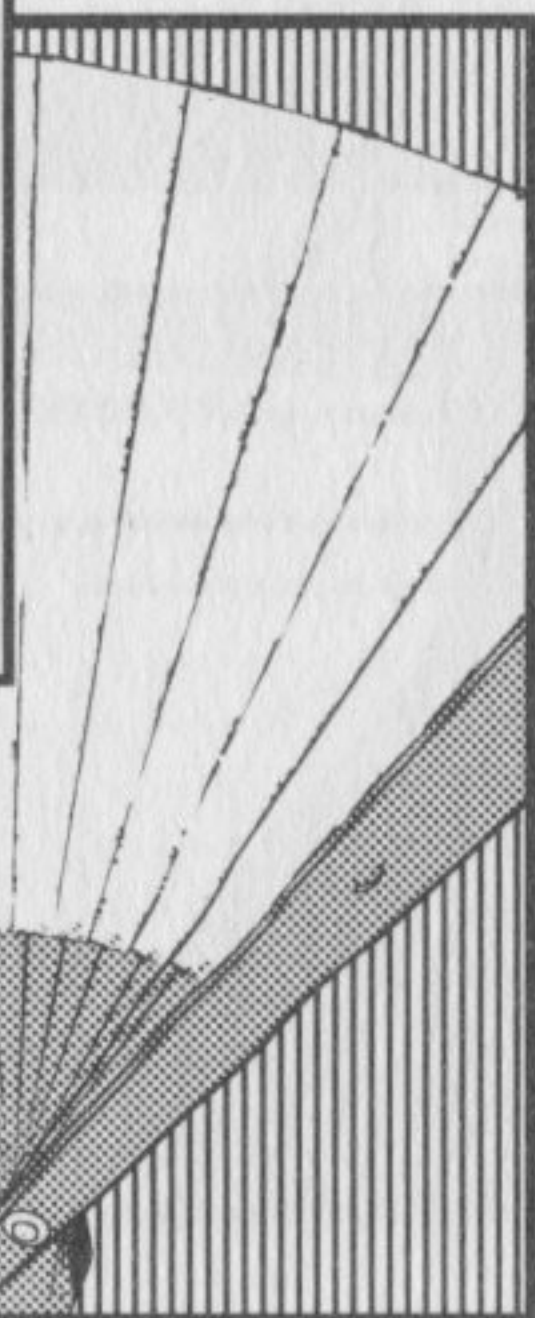
女の子でした

ことりにとって海未ちゃんは

初めての



色んな
お稽古事をしていて



綺麗な髪と



小さい頃から
背筋がピンと伸びてて





優しく 笑いかけてくれる
女の子でした



凜とした
でもとっても優しい声で

ひんが



無意識に
格好いい時があるのに

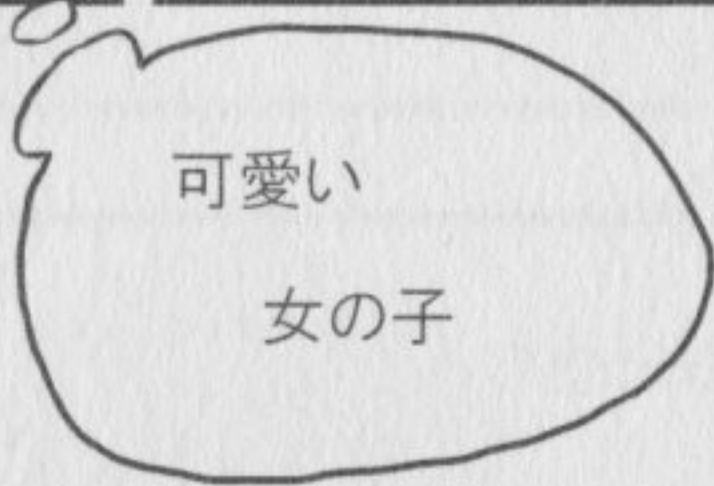
常に車道側

いつもは真面目で



実はかわいいものに
興味があつて

春の新作
スカート特集

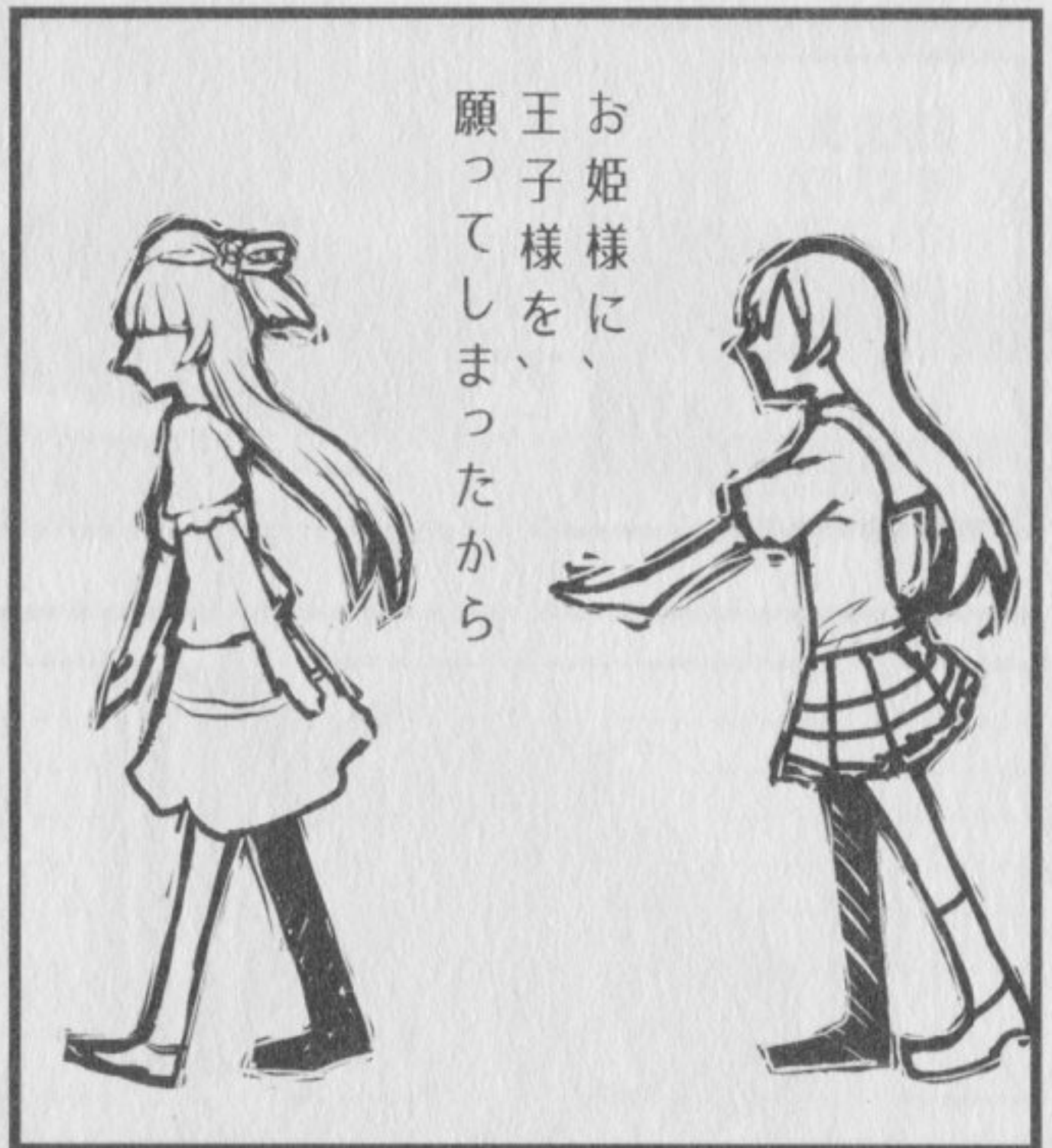




とても優しくて 可愛い海未ちゃんに



助けてもらおうと、 してしまったの

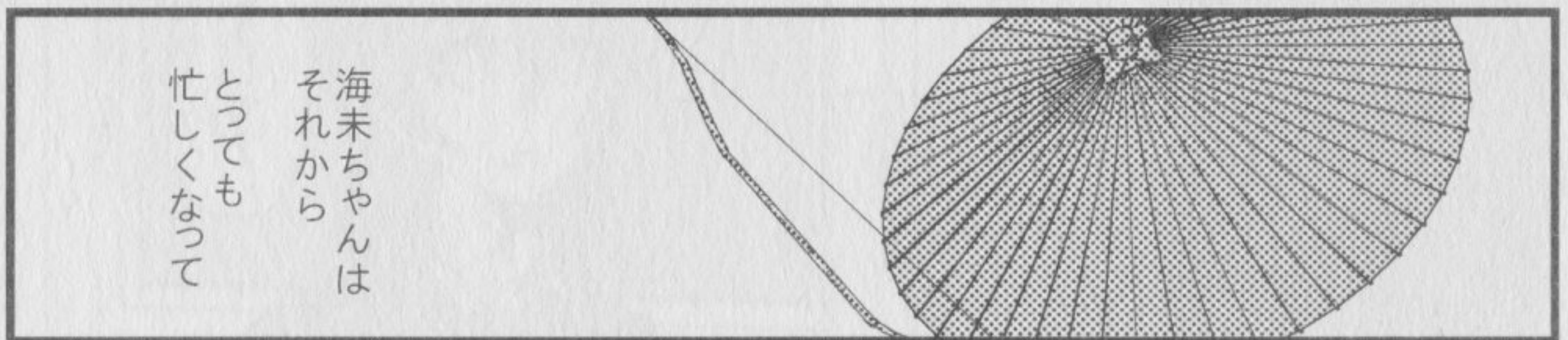




うみちゃんに
そんなつらそうな顔を



してほしくなかったのに



海未ちゃんは
それから
とつても
忙しくなつて

今も、忙しくて



二人で会うことも
めつきり
減ったけれど

もしも
海未ちゃんが



行くのを

まっすぐに
嫌がってくれても



きつとどりは
行ってしまおうと
思うのです。



だって、もし

どうして海未ちゃんは
止めてくれたの？

そんなことを
訊いてしまったら

どうして？





そんなの、

ことりと
私は

友達じ
ないですわ



その言葉を
聞きたくない
訳も



離れたほうが
いって
分かってるのに

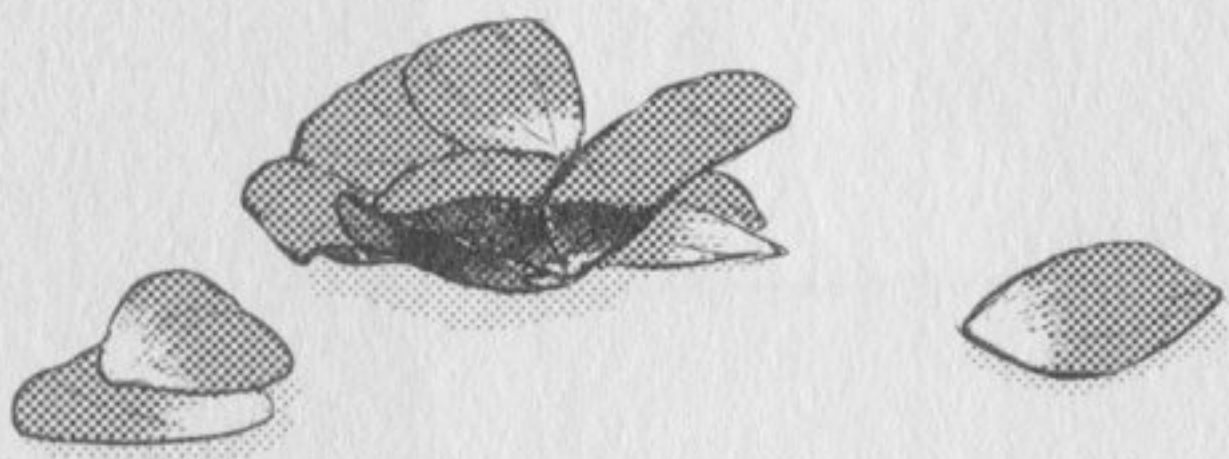
海未ちゃん？

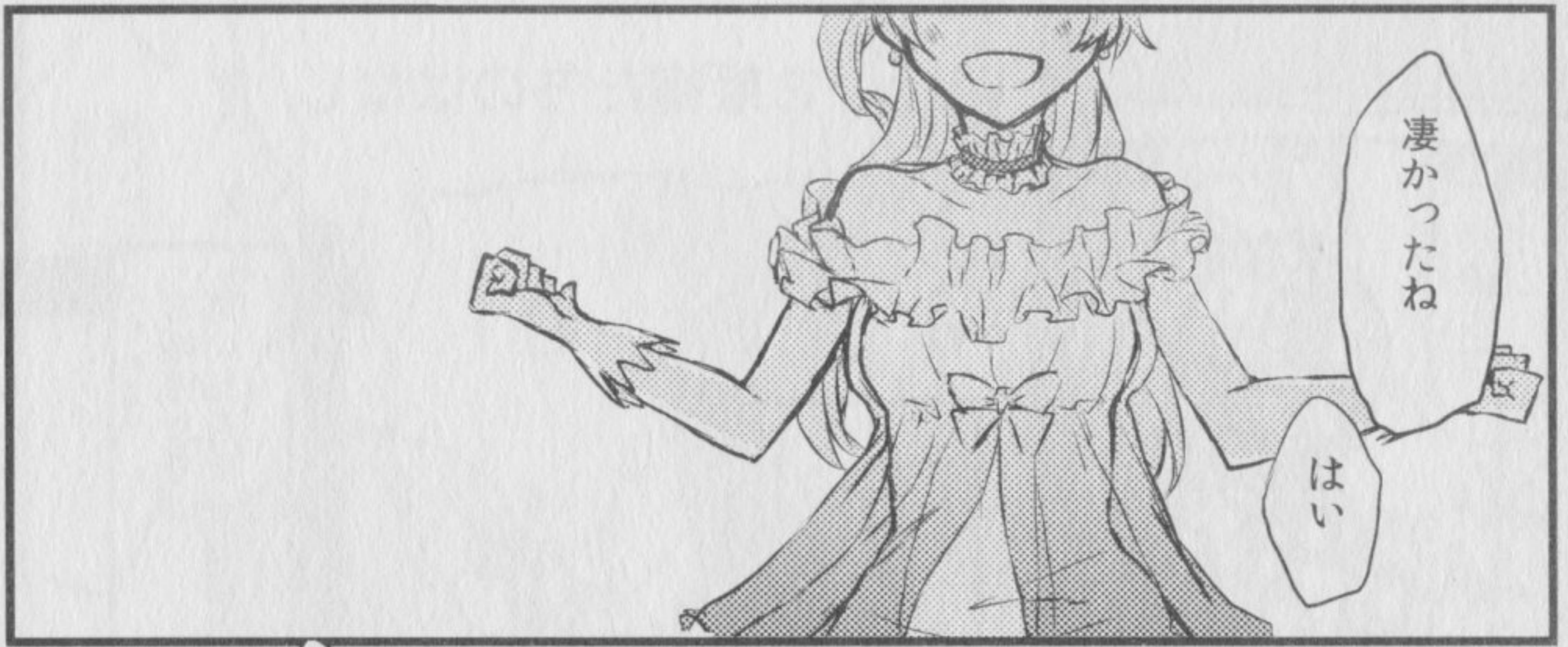
今日も私は、
貴女からの、
電話をとるの

貴女を王子様のように
思ってしまう訳も
あやふやで、怖くて

あの子じゃ
分からないよねと、

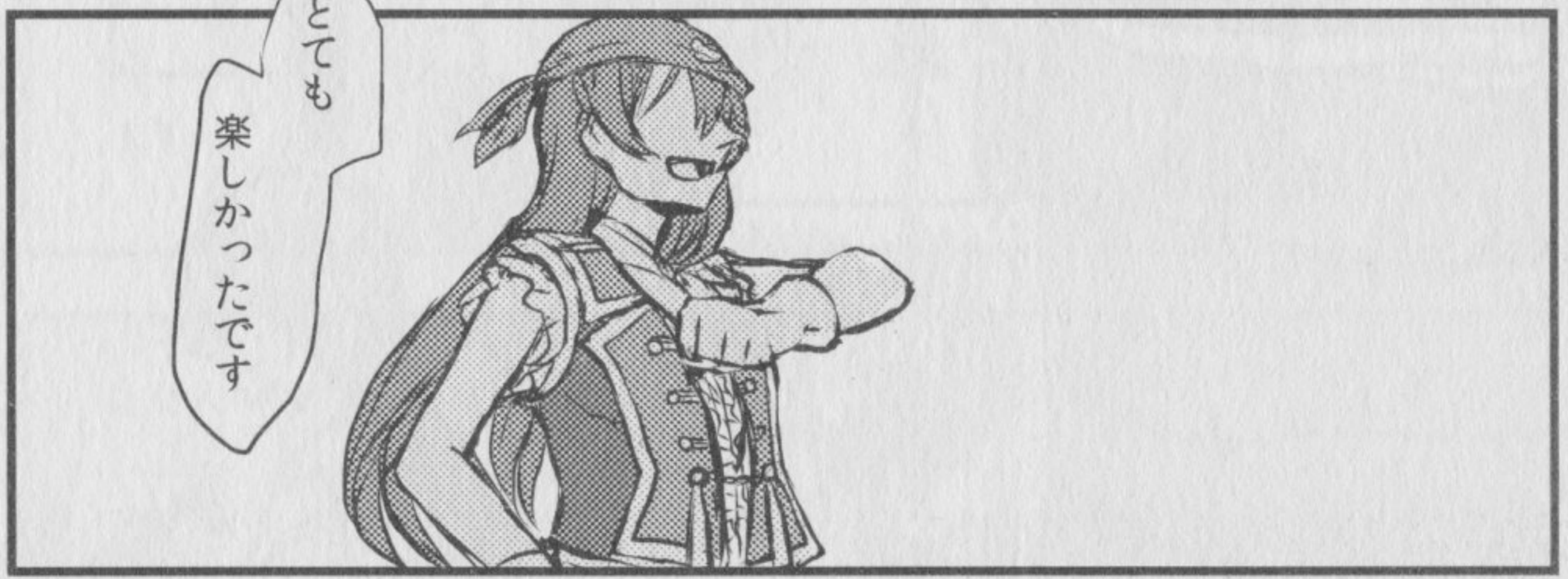
お姫様は言いました。





凄かったね

はい




とても
楽しかったです



うん



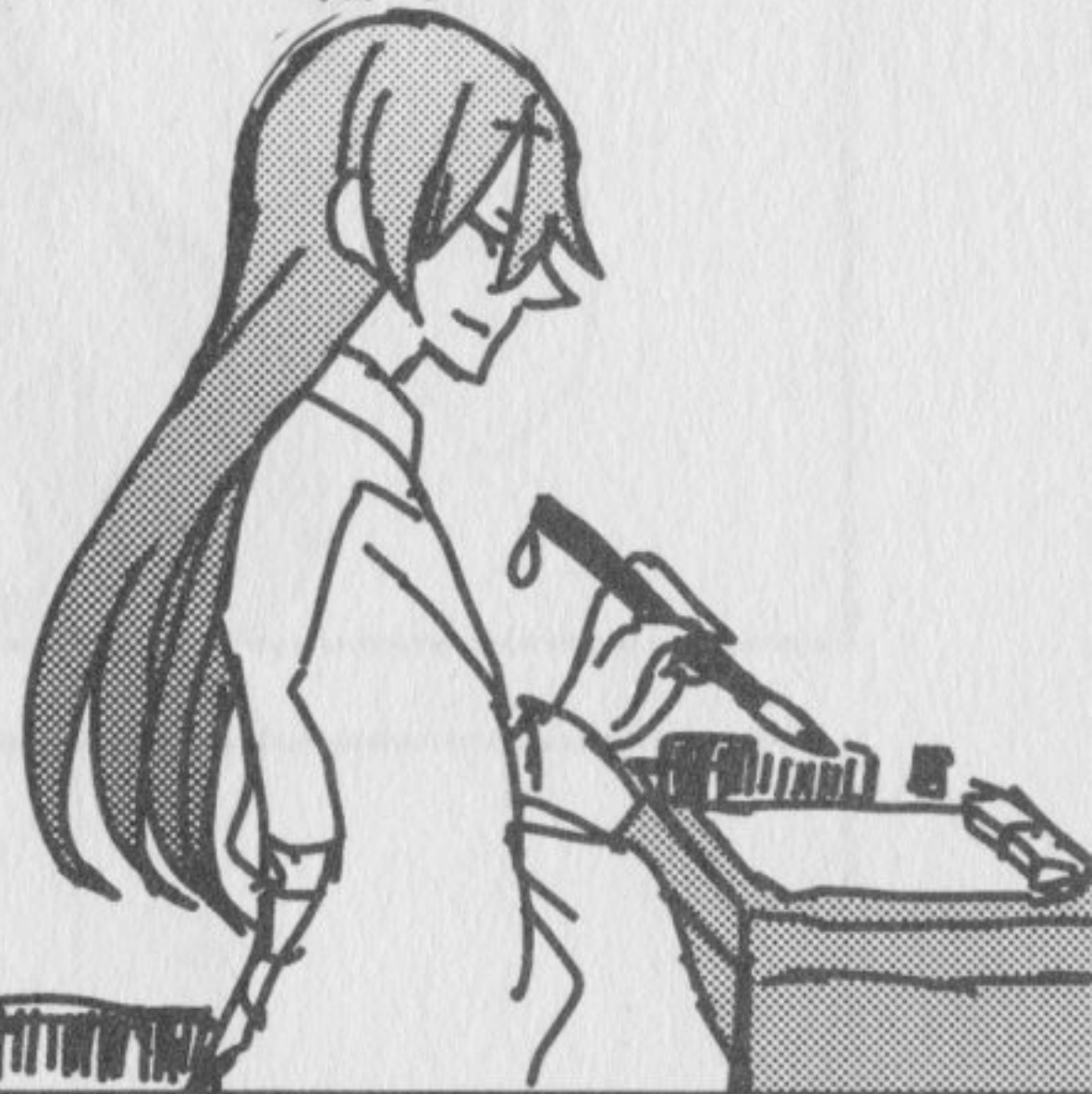
楽しかったね



お姫様たちのはなし

お姫様たちは
思い出を振り返るように

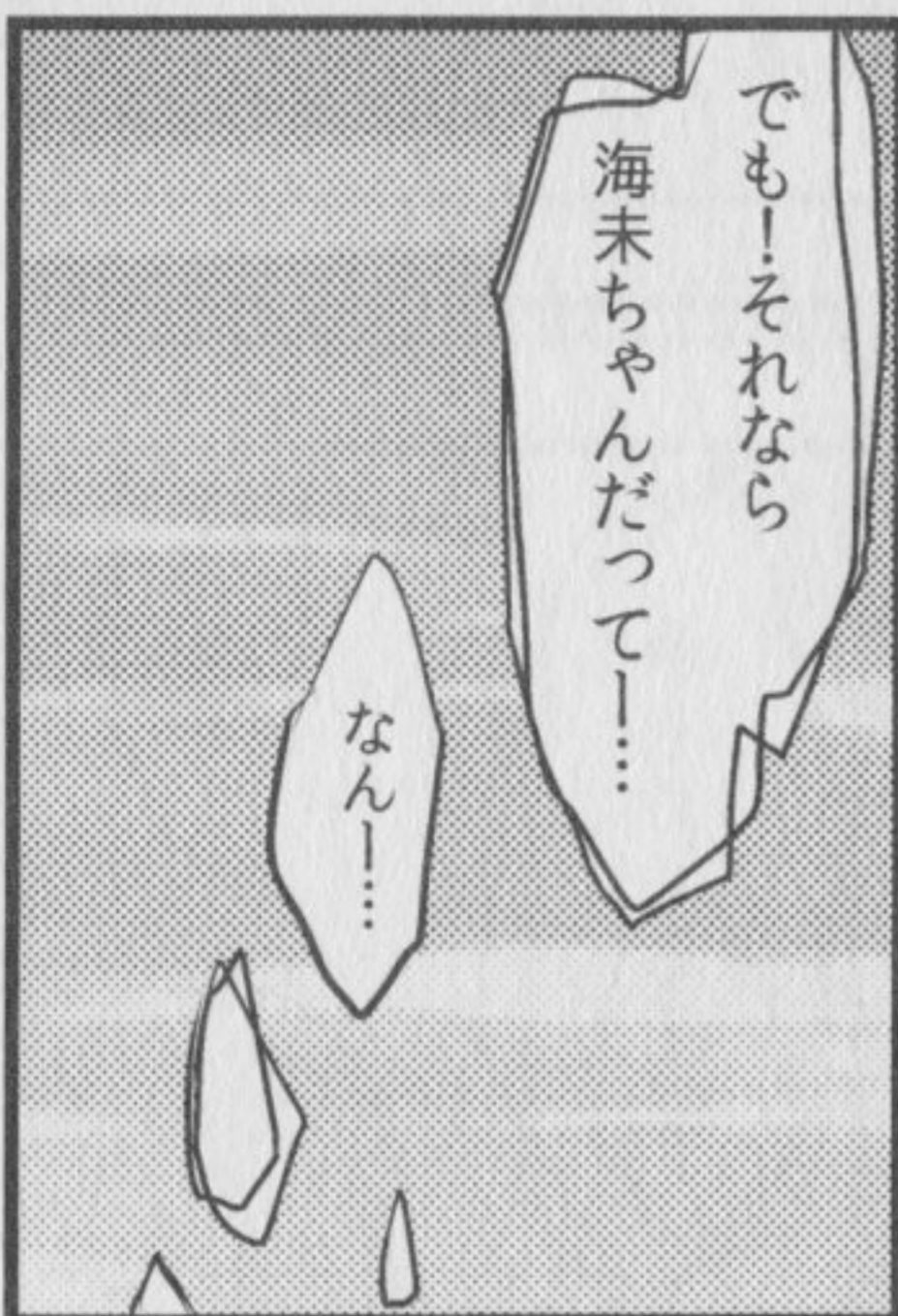
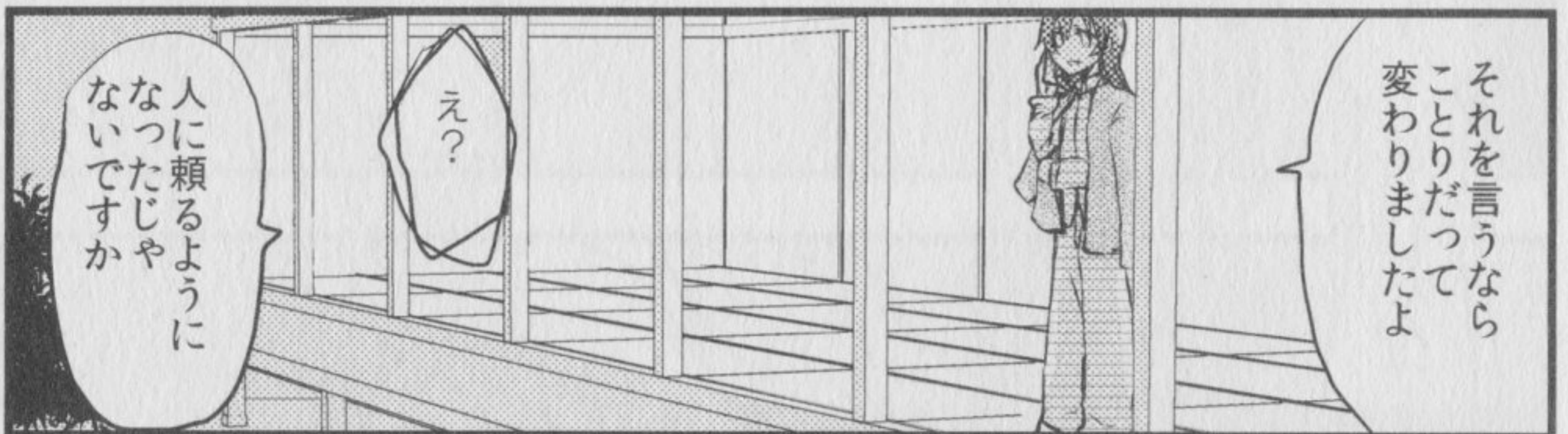
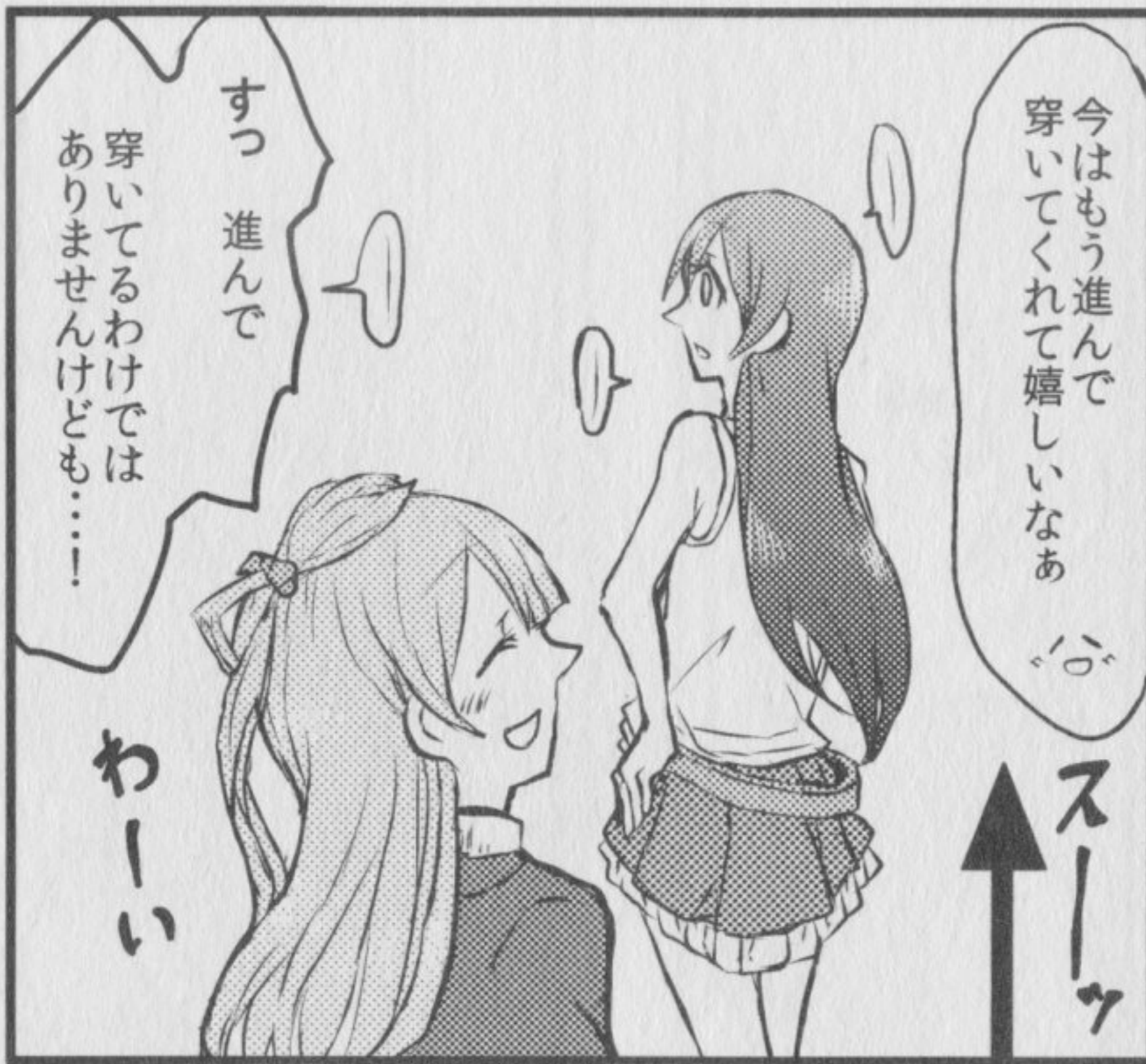
たくさん たくさん
話しました

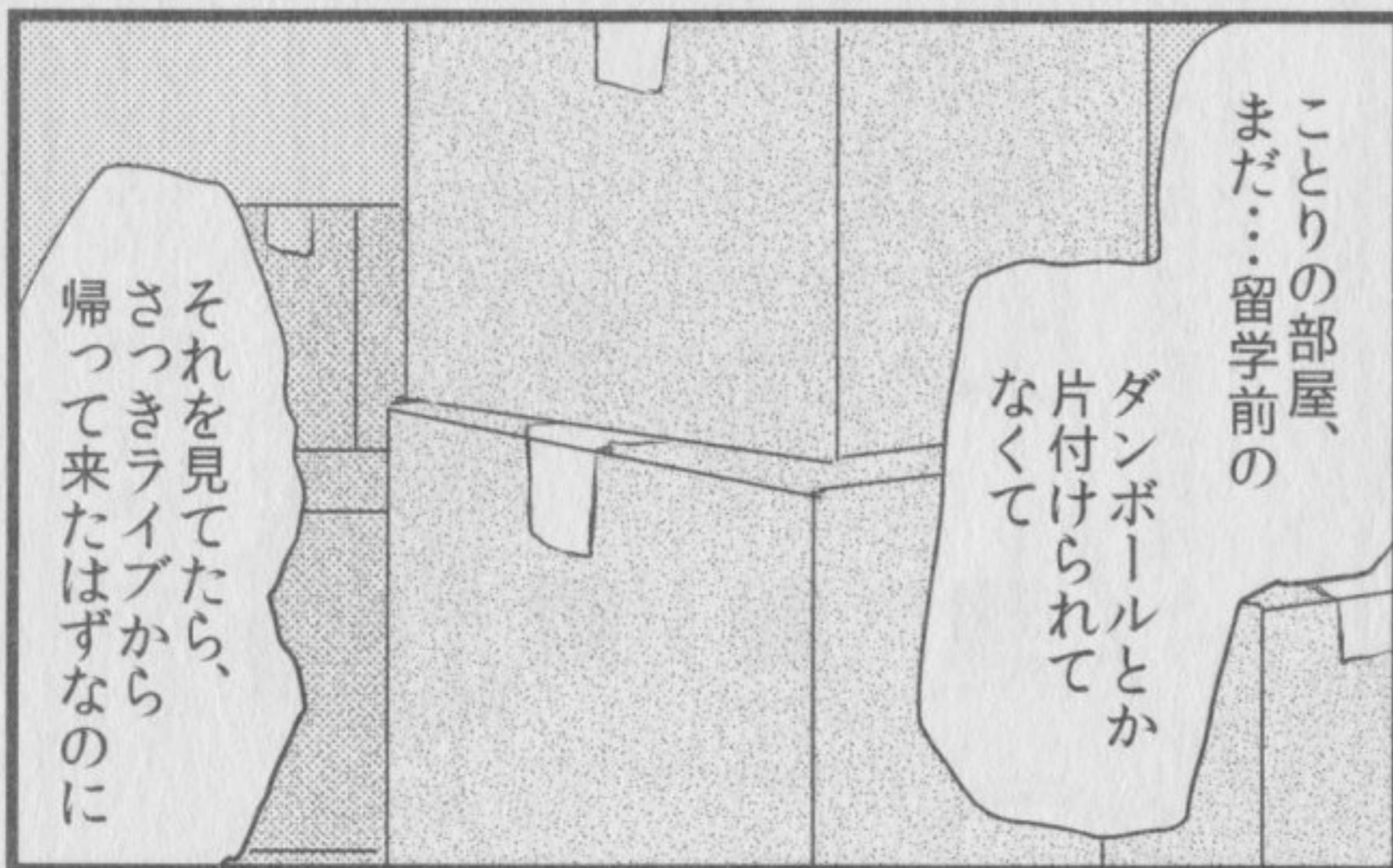


?何がですか?

やっぱり
海未ちゃん
変わったよね







あの日に戻ったみたいで

今からことり、

行くのかな、

なんて

しごめんね海未ちゃん
変なコト言っ

今から行きます

うん今……



今、裏手から
出ました
すぐ向かいます

…え?



だからこそです



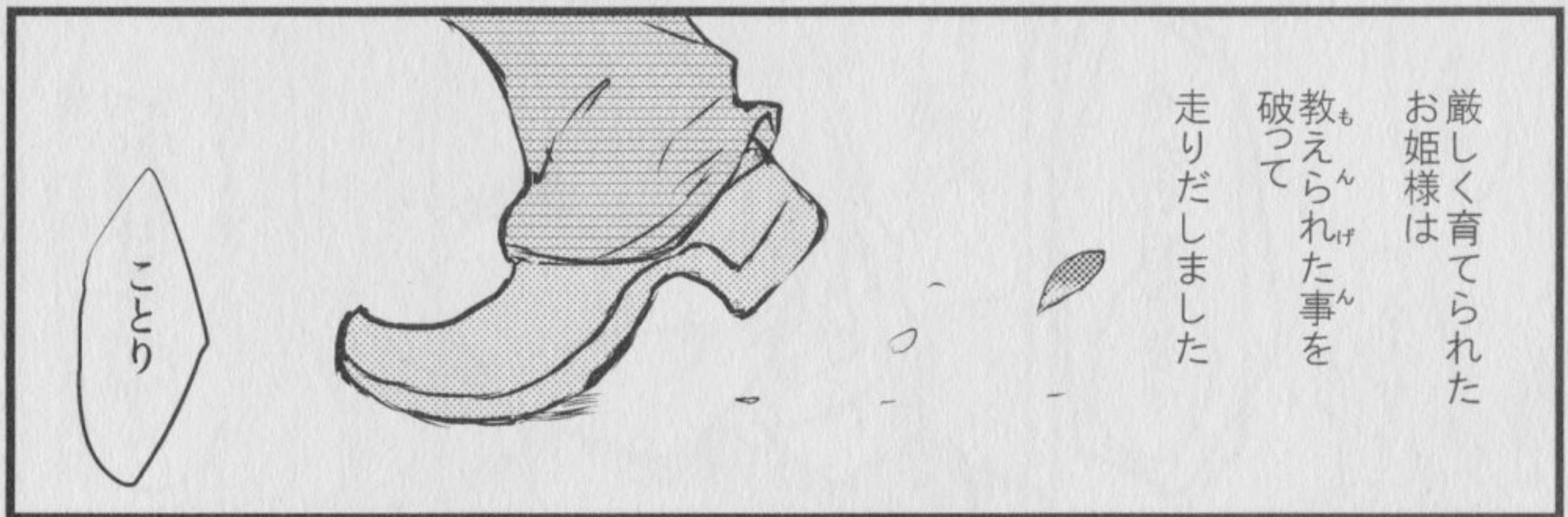
それに海未ちゃん、
門限もあるでしょ？
学生の間は…

…ええ



走って
向かいますので

あ、危ないよ！
海未ちゃん女の子
なんだよ



厳しく育てられた
お姫様は
もえんげた事を
破つて
走りだしました

こつり

私は
ことりや穂乃果



μsの皆と出会い

私は私が思った以上に



やりたいことや
我儘を持つている
欲深い人間であると
気づきまじた



ことり、私は
ずっと負け続けて
いたのです



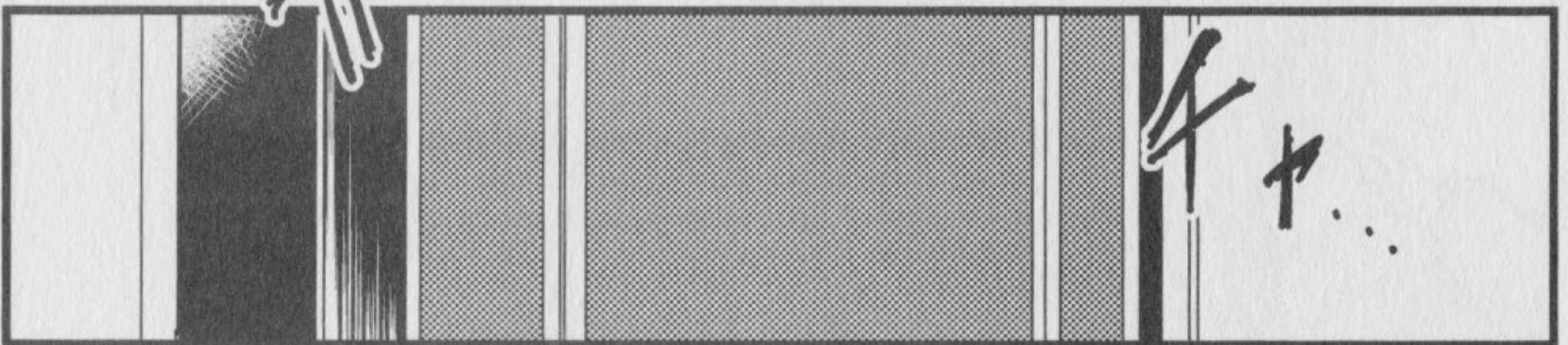
自分の本心に。
あの日からずっと

貴女が行って
しまう事が



嫌だったの
だと

やっと気づいた気持ちだから
どうしてそう思うのか 分からないけれど



キヤ...



ー…私達はいつか
大人になって

割り切らねばならない日
来るでしょう

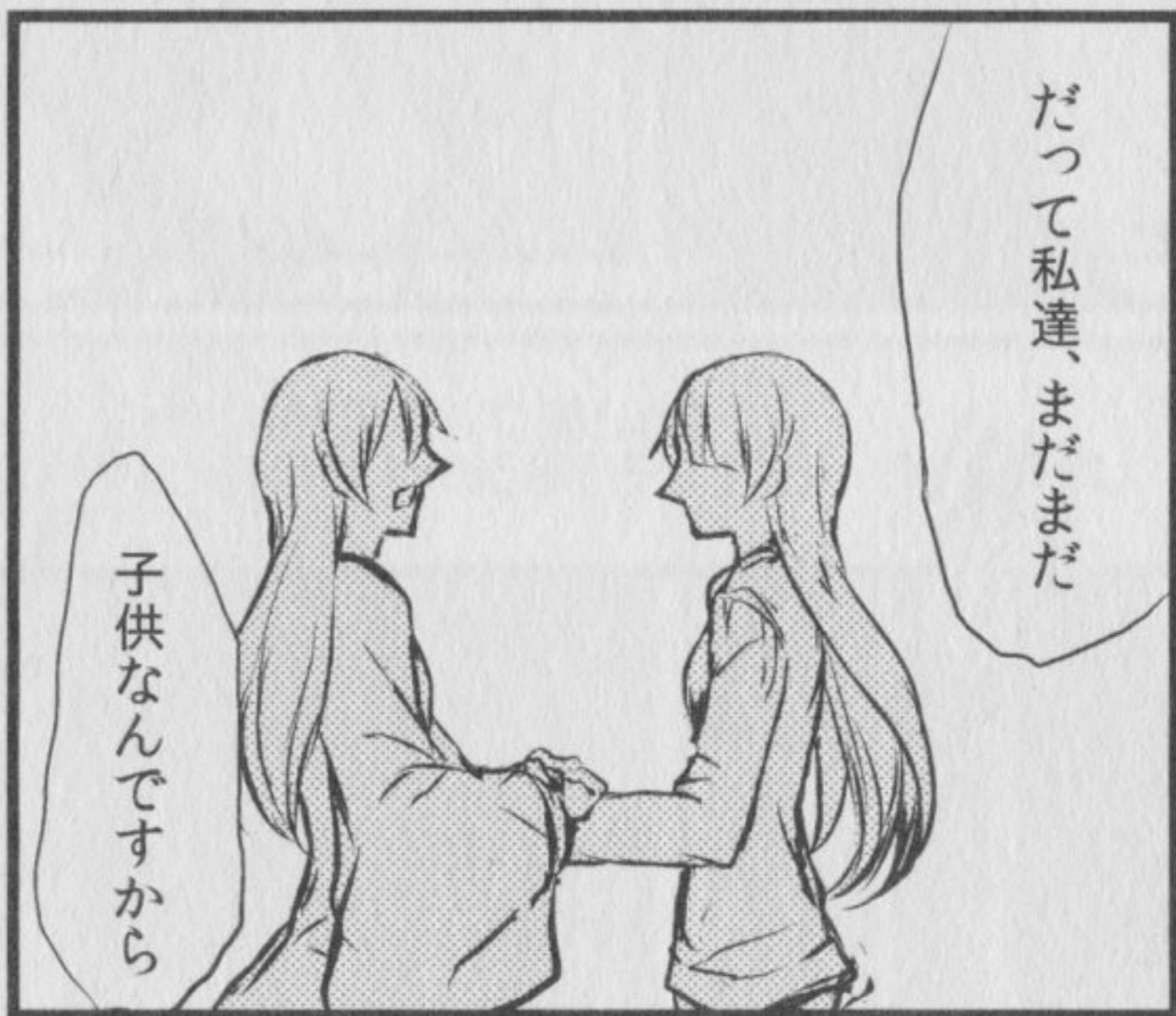


でも、ことり、望まれることに
慣れていて

望むことが初めてだって、
きつと、いいんです



ー……な



子供なんですから

だって私達、まだまだ

経験したって
失敗したって
いいんです

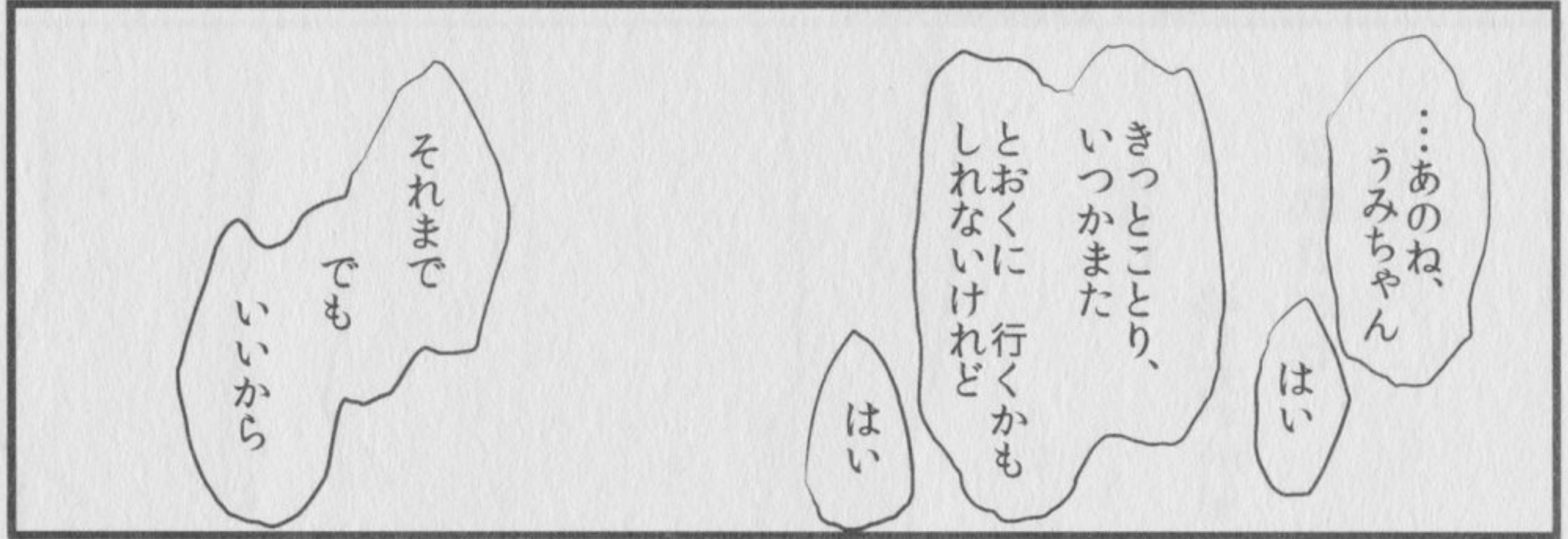


…いいのかな

はい
もし怒られたら
一緒に怒られます

酷い我儘だよ

ええ



…あのね、
うみちゃん

はい

きつとことり、
いつかまた
とおくに 行くかも
しれないけれど

はい

それまで

でも

いいから



…そばに
いてくれる？



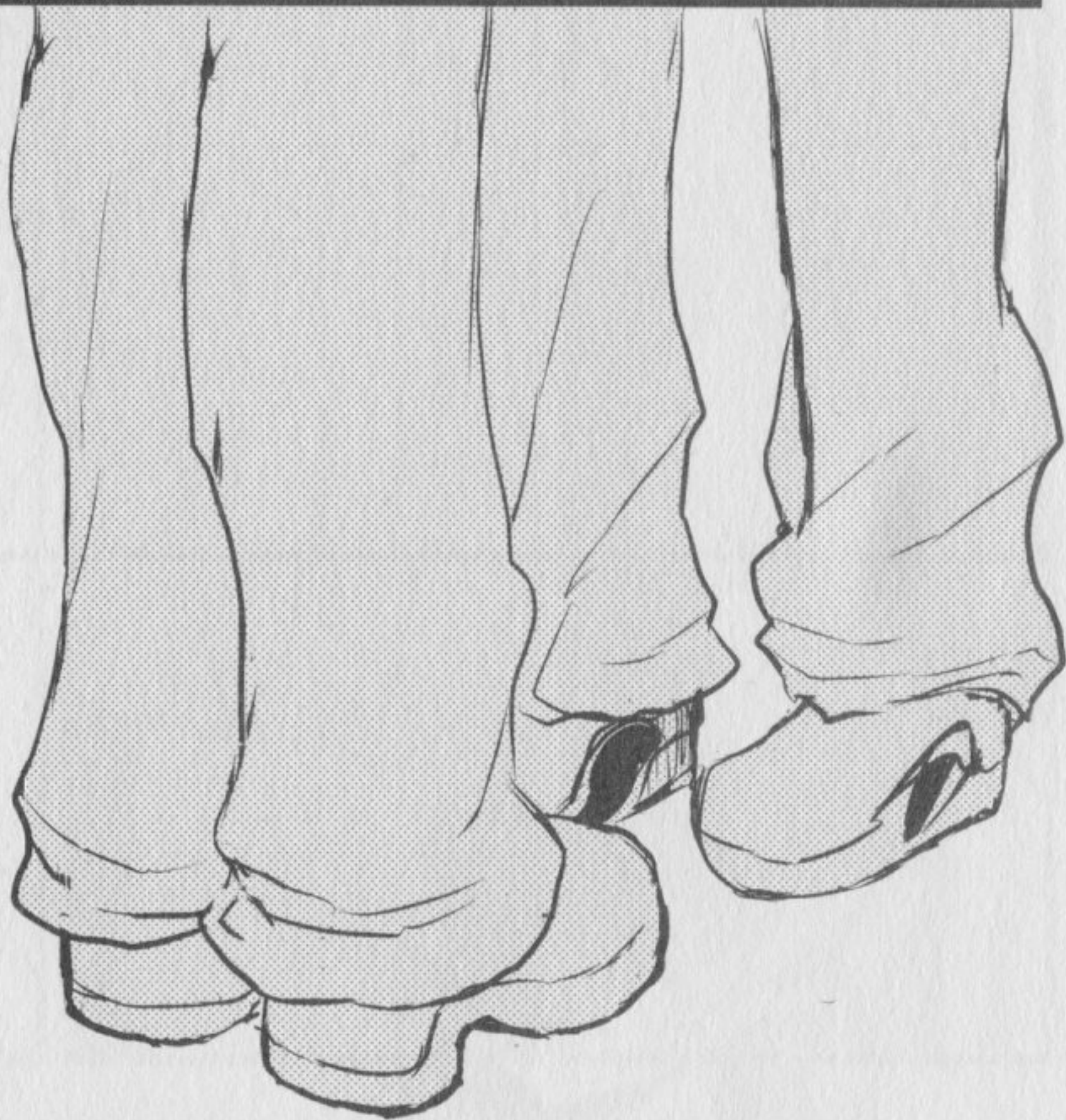
はい



大丈夫です ことり
行く前も
帰って来ても
居場所は

此処に

ありますから

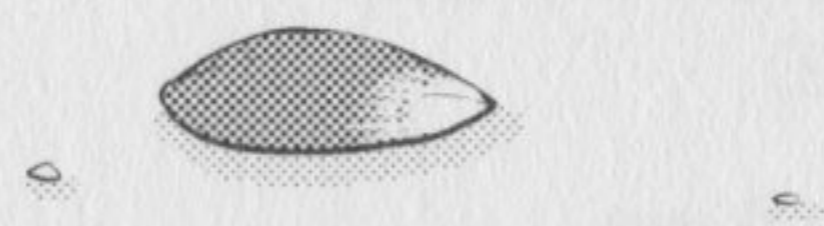


お姫様たちは

遊びをするには

おとなになっ
てしま

誰もいなくなっ
てしま



Love Live!
Fan book Vo.3

ROUGH70

